

目的 FRドレープメーターは、静的なシルエットによりドレープ性を評価する方法であるが、フレアーのあるドレスやスカートの着装時の形態的美しさは、人体の動きや風などによるノードの動きも重要な要素である。そこで婦人服地のドレープの動的要因を評価する方法を検討する目的で、ジャージーと織物のFRドレープにおけるノードの移動性、特に動的波動性を測定した。

方法 試料としては、婦人服用ジャージー5種、織物6種を用いた。ドレープメーターの支持円板は直径17 cm、試片は直径51 cm、円板の中心を軸として回転させて、ドレープ形状の変化をストロボストリークカメラ、モータードライブカメラで撮影し、円板の回転数を変化させたときのノード回転速度を測定した。また試料の曲げこわさ（振動リード法）、平面重、厚さ、ドレープ係数を測定して検討した。

結果 円板の回転よりもノードの回転が遅れ始める円板回転数（限界回転数）よりも回転が速くなると、ノードの回転が著しく遅くなるが、さらに回転が速くなるとノードの回転速度の減少がゆるやかになる。このときの円板回転数80 rpmにおけるノード回転数によりノード波動速度が比較できる。このノード波動速度とFRドレープ係数との相関は認められないが、ドレープ係数が等しいとき編物は織物よりもノード波動速度が小さいこと、また限界回転数が大きいことが判明した。従って編物の方がフレアースカートのノードが揺動しにくく、重々しい波動をすることが推察される。